

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	2020年2月6日
【四半期会計期間】	第20期第3四半期（自 2019年10月1日 至 2019年12月31日）
【会社名】	株式会社フュートレック
【英訳名】	FueTrek Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 浦川 康孝
【本店の所在の場所】	大阪市淀川区西中島六丁目1番1号
【電話番号】	06-4806-3112（代表）
【事務連絡者氏名】	常務取締役管理部長 西田 明弘
【最寄りの連絡場所】	大阪市淀川区西中島六丁目1番1号
【電話番号】	06-4806-3112（代表）
【事務連絡者氏名】	常務取締役管理部長 西田 明弘
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第19期 第3四半期連結 累計期間	第20期 第3四半期連結 累計期間	第19期
会計期間	自2018年4月1日 至2018年12月31日	自2019年4月1日 至2019年12月31日	自2018年4月1日 至2019年3月31日
売上高 (千円)	2,091,906	1,900,881	3,101,961
経常損失 () (千円)	241,596	141,466	114,756
親会社株主に帰属する四半期 (当期) 純損失 () (千円)	267,944	180,316	300,595
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	289,241	168,541	303,818
純資産額 (千円)	3,052,804	2,869,685	3,038,227
総資産額 (千円)	4,632,086	4,302,052	4,618,424
1株当たり四半期 (当期) 純損失 () (円)	28.66	19.27	32.14
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期) 純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	61.8	62.0	61.6

回次	第19期 第3四半期連結 会計期間	第20期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自2018年10月1日 至2018年12月31日	自2019年10月1日 至2019年12月31日
1株当たり四半期純損失 () (円)	10.47	0.44

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期) 純利益については、第19期第3四半期連結累計期間及び第19期について、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期 (当期) 純損失であるため、第20期第3四半期連結累計期間について、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
3. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社は「その他事業」に属しておりますプロモーション事業を、受取対価を現金のみとする事業譲渡契約により株式会社ホワイトホールラボに譲渡いたしました。

また、主要な関係会社における異動はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、堅調な企業収益と雇用情勢の改善を背景に、緩やかな回復基調で推移しました。しかし、米中貿易摩擦の長期化や中国経済の失速、国際経済の不確実性や金融市場の変動懸念もあり、景気の先行きは依然として不透明な状態が続いております。

このような環境のなか、当社グループは、音声認識事業分野とCRM事業分野を含む「ソフトウェア開発・ライセンス事業」を中核事業とし、映像制作・メディア事業分野などのそれぞれの事業の収益拡大を目指して、各事業のさらなる強化に努めました。

音声認識事業分野では、コミュニケーションロボットやコールセンターへ向けた拡販活動を積極的に展開しております。当第3四半期には、VAIO株式会社がロボット汎用プラットフォームを用いて提供するコミュニケーションロボットに、当社のローカル型音声認識が採用されました。

CRM事業分野では、継続して当社製品の新規採用が増加しております。また、新しい自社製品の開発及び、開発を含む販売パートナーとの協業検討を進めております。

当社グループの当第3四半期連結累計期間における経営成績としましては、売上高は1,900,881千円（前年同四半期比9.1%減）、営業損失は140,884千円（前年同四半期は営業損失157,523千円）、経常損失は141,466千円（前年同四半期は経常損失241,596千円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は180,316千円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失267,944千円）となりました。

当第3四半期連結会計期間において、匿名組合投資利益として特別利益64,047千円及び投資有価証券評価損として特別損失42,330千円を計上いたしました。通期業績予想への影響を検討した結果、当第3四半期連結会計期間末日において当社が把握している、他の少額な業績予想の変動要因を含めた総合的な影響は軽微であると判断しております。

セグメントごとの当第3四半期連結累計期間の経営成績につきましては、次のとおりであります。

セグメントの名称	第19期 第3四半期連結累計期間 (千円)	第20期 第3四半期連結累計期間 (千円)	増減 (千円)
ソフトウェア開発・ライセンス事業	806,411	934,858	128,446
映像制作・メディア事業	1,107,640	869,990	237,650
その他事業	177,854	96,032	81,822
売上高合計	2,091,906	1,900,881	191,025

ソフトウェア開発・ライセンス事業（音声認識事業分野、CRM事業分野、システム開発事業分野）
売上高は934,858千円（前年同四半期比15.9%増）、営業損失は113,481千円（前年同四半期は営業損失67,806千円）となりました。

音声認識事業分野の売上高は574,583千円（同5.3%増）となりました。前第3四半期連結累計期間と比較し、主に受託業務に係る売上が増加したことによるものであります。

CRM事業分野の売上高は316,683千円（同47.9%増）となりました。前第3四半期連結累計期間と比較し、主に新規顧客からの売上が増加したことによるものであります。

ソフトウェア開発・ライセンス事業においては、前年同四半期と比べて、売上は増加しましたが、営業損失が増加いたしました。

この要因につきましては、「2020年3月期 第2四半期決算短信」でもお伝えしておりましたとおり、当第2四半期連結累計期間のCRM事業分野において、新規顧客の増加に伴って開発業務が一時的に集中したことにより、開発経費が増加したことがあげられます。

当社では、この状況を改善すべく、外部委託先の精査を行う等、開発リソースの管理強化に努めましたため、当第3四半期連結会計期間においては、当第2四半期連結累計期間までと比べて、状況は改善しております。

また、音声認識事業分野の営業損失は、前年とほぼ同じ水準で推移いたしております。

映像制作・メディア事業（映像制作・メディア事業分野）

売上高は869,990千円（同21.5%減）、営業損失は14,535千円（前年同四半期は営業利益15,352千円）となりました。前第3四半期連結累計期間と比較し、主に広告代理店業務に係る主要顧客からの売上が減少したことによるものであります。

その他事業（プロモーション事業分野 他）

売上高は96,032千円（同46.0%減）、営業損失は12,866千円（前年同四半期は営業損失105,069千円）となりました。

2019年7月1日付で、プロモーション事業を、受取対価を現金のみとする事業譲渡契約により株式会社ホワイトホールラボに譲渡いたしました。このため、プロモーション事業分野の経営成績が当社グループの経営成績に含まれる期間が下記のように相違しております。

前第3四半期連結累計期間 2018年4月1日から2018年12月31日までの9か月間

当第3四半期連結累計期間 2019年4月1日から2019年6月30日までの3か月間

(2) 財政状態の状況

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ316,371千円減少し4,302,052千円となりました。

総資産の内訳は、流動資産が3,674,339千円（前連結会計年度末比206,738千円減）、固定資産が627,713千円（同109,632千円減）であります。流動資産の主な変動要因は、現金及び預金の増加199,348千円、受取手形及び売掛金の減少490,870千円、流動資産その他の増加56,206千円によるものであり、固定資産の主な変動要因は、のれんの減少75,937千円、ソフトウェアの減少48,627千円によるものであります。

負債の部では、流動負債が1,432,116千円（同187,366千円増）、固定負債が251千円（同335,196千円減）であります。流動負債の主な変動要因は、買掛金の減少74,723千円、1年内返済予定の長期借入金の増加330,000千円、流動負債その他の減少60,321千円によるものであり、固定負債の主な変動要因は、長期借入金の減少330,000千円によるものであります。

純資産の部では、利益剰余金の減少180,316千円等により2,869,685千円（同168,541千円減）となりました。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は23,332千円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	31,744,000
計	31,744,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (2019年12月31日)	提出日現在発行数(株) (2020年2月6日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	9,504,200	9,504,200	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数 100株
計	9,504,200	9,504,200	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数 増減数(株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
2019年10月1日～ 2019年12月31日	-	9,504,200	-	733,979	-	932,204

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2019年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2019年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 146,400	-	単元株式数 100株
完全議決権株式(その他)	普通株式 9,355,000	93,550	単元株式数 100株
単元未満株式	普通株式 2,800	-	-
発行済株式総数	9,504,200	-	-
総株主の議決権	-	93,550	-

【自己株式等】

2019年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社フュートレック	大阪市淀川区西中島六丁目1番1号	146,400	-	146,400	1.54
計	-	146,400	-	146,400	1.54

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

(1) 退任役員

役職名	氏名	退任年月日
取締役	藤井 聡子	2019年9月30日

(2) 異動後の役員の男女別人数及び女性の比率

男性9名 女性1名(役員のうち女性の比率10.0%)

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（2019年10月1日から2019年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,799,586	2,998,935
受取手形及び売掛金	756,100	265,230
有価証券	200,000	200,000
仕掛品	60,760	87,709
その他	67,570	123,777
貸倒引当金	2,940	1,313
流動資産合計	3,881,078	3,674,339
固定資産		
有形固定資産	58,671	49,966
無形固定資産		
のれん	247,175	171,238
ソフトウェア	146,207	97,579
無形固定資産合計	393,382	268,817
投資その他の資産		
投資有価証券	228,986	260,457
繰延税金資産	4,261	2,362
その他	52,043	46,110
投資その他の資産合計	285,291	308,930
固定資産合計	737,346	627,713
資産合計	4,618,424	4,302,052
負債の部		
流動負債		
買掛金	131,661	56,938
短期借入金	100,000	100,000
1年内返済予定の長期借入金	800,000	1,130,000
未払法人税等	50,787	24,601
賞与引当金	1,473	20,070
その他	160,827	100,505
流動負債合計	1,244,749	1,432,116
固定負債		
長期借入金	330,000	-
繰延税金負債	5,447	251
固定負債合計	335,447	251
負債合計	1,580,196	1,432,367
純資産の部		
株主資本		
資本金	733,979	733,979
資本剰余金	920,215	920,215
利益剰余金	1,270,441	1,090,125
自己株式	70,014	70,014
株主資本合計	2,854,620	2,674,304
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	9,328	6,046
その他の包括利益累計額合計	9,328	6,046
非支配株主持分	192,935	201,428
純資産合計	3,038,227	2,869,685
負債純資産合計	4,618,424	4,302,052

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
売上高	2,091,906	1,900,881
売上原価	1,504,185	1,419,787
売上総利益	587,721	481,093
販売費及び一般管理費	745,244	621,978
営業損失()	157,523	140,884
営業外収益		
受取利息	166	137
受取配当金	1,100	950
受取保険金	-	2,743
保険解約返戻金	22,529	-
その他	589	1,838
営業外収益合計	24,386	5,669
営業外費用		
支払利息	8,173	5,320
支払手数料	96,369	-
投資事業組合運用損	3,541	-
その他	375	931
営業外費用合計	108,460	6,252
経常損失()	241,596	141,466
特別利益		
固定資産売却益	-	63
匿名組合投資利益	-	64,047
新株予約権戻入益	10,051	-
特別利益合計	10,051	64,111
特別損失		
固定資産除却損	-	1,499
投資有価証券評価損	-	54,687
ゴルフ会員権売却損	2,361	-
特別損失合計	2,361	56,187
税金等調整前四半期純損失()	233,906	133,542
法人税、住民税及び事業税	37,518	41,577
法人税等調整額	2,238	3,296
法人税等合計	39,757	38,280
四半期純損失()	273,664	171,823
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失()	5,719	8,492
親会社株主に帰属する四半期純損失()	267,944	180,316

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期純損失()	273,664	171,823
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	15,577	3,281
その他の包括利益合計	15,577	3,281
四半期包括利益	289,241	168,541
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	283,522	177,034
非支配株主に係る四半期包括利益	5,719	8,492

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。

なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
減価償却費	99,756千円	76,575千円
のれんの償却額	32,466千円	26,389千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

配当金支払額

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

配当金支払額

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自2018年4月1日 至2018年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	ソフトウェア開発・ ライセンス事業	映像制作・ メディア事業	その他事業	調整額	合計 (注)
売上高					
外部顧客への売上高	806,411	1,107,640	177,854	-	2,091,906
セグメント間の 内部売上高又は振替高	320	781	-	1,101	-
計	806,731	1,108,421	177,854	1,101	2,091,906
セグメント利益又は損失()	67,806	15,352	105,069	-	157,523

(注) セグメント利益又は損失の合計額は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

当第3四半期連結累計期間(自2019年4月1日 至2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	ソフトウェア開発・ ライセンス事業	映像制作・ メディア事業	その他事業	調整額	合計 (注)
売上高					
外部顧客への売上高	934,858	869,990	96,032	-	1,900,881
セグメント間の 内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	934,858	869,990	96,032	-	1,900,881
セグメント損失()	113,481	14,535	12,866	-	140,884

(注) セグメント損失の合計額は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純損失及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第 3 四半期連結累計期間 (自 2018年 4 月 1 日 至 2018年12月31日)	当第 3 四半期連結累計期間 (自 2019年 4 月 1 日 至 2019年12月31日)
1 株当たり四半期純損失 ()	28円66銭	19円27銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純損失 () (千円)	267,944	180,316
普通株主に帰属しない金額 (千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純 損失 () (千円)	267,944	180,316
普通株式の期中平均株式数 (株)	9,350,296	9,357,740

(注) 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益については、前第 3 四半期連結累計期間について、潜在株式は存在するものの 1 株当たり四半期純損失であるため、当第 3 四半期連結累計期間について、1 株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年2月5日

株式会社フュートレック

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 森村 圭志

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 井尾 武司

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社フュートレックの2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2019年10月1日から2019年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社フュートレック及び連結子会社の2019年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. X B R Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。